IoTで健康情報収集

経産省　運動習慣促す研究事業

経済産業省は、ウエアラブルデバイスを用いて取得した個人の健康情報を基に、健康に良い生活や運動習慣への変化を促す研究事業を2018年1月にも始める。企業保険者などに協力してもらい、17年中に参加者（被験者）を募集・登録し、2000人程度を対象に実施する方針。その際に先行研究で有意な効果が示唆されたアプリケーション（応用ソフト）を用いる。科学的に根拠のあるデータ（エビデンス）として活用し、個人の行動変化を促すビジネスモデルの創出を目指す。

構想として、参加者はウエアラブルデバイス、IoT（モノのインターネット）デバイスによって歩数や活動量、体重、血圧を毎日測定し、3カ月ごとの診断指標である「HbA1c」が6・0％以上、8・9％以下であることや、日常的にスマートフォンを使用していること、20歳以上75歳未満であることなどの点で詰めている。

血液検査を行う。参加者の条件は、糖尿病の実施の際には、先行研究で健康状態の改善に有意な効果を発揮することが示唆された「七福神アプリ」を活用する。

同アプリを活用したグループでは、「HbA1c」について、投薬治療なしの被験者の平均値が「6・99」だったのが「6・43」へ改善する結果が得られたという。

同アプリは、七福神に見立てた7種類のキャラクターが登場し、取得した歩数などのデータを基に行動変化を促すメッセージを個人のスマートフォンに配信する仕組み。

これまでの先行研究の取り組みは約1年だった。このため今回の取り組みは、3年程度が可能で効果検証システムに適用することで省エネルギーと快適性を両立できるという。経産省は新たなJIS規格を設け、性能評価法などを標準化する。

日本規格協会やダイキン工業などが参加する委員会で原案を作成し、2018年中をめどに規格を発効する計画だ。

審査項目にESG投資

東証　企業価値向上表彰に追加

資本コストを上回る企業価値創造を目指す企業を表彰する東京証券取引所の「企業価値向上表彰」の審査項目に、ESG（環境・社会・統治）・非財務情報と無形資産への投資情報を適切に投資家に開示する動きが加速しそうだ。

東証は同表彰制度の審査に「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス－ESG・非財務情報と無形資産への投資－」（ESGガイダンス）を反映する。経済産業省が一橋大学大学院の伊藤邦雄特任教授らと策定し、5月に公表した指針を反映したもの。顧客基盤など財務諸表に表れない